

筆道資料の探訪

天平筆

昔は書道のことを筆道とも
いっていました。

一、筆道の秘事一貫伝心一文字
の心より外にはなし
筆情の筆法も是よりおこる
なり何の心も有まじく見ゆ
るまま気を付て心を碎くだべき
なり

現存している筆で最古のものは
奈良正倉院の中倉に天平筆と
云われるものが十七本伝存され
ています。

この筆の製法は筆柱の下部を
紙で巻き、毛を着せるという方
法を繰り返す製筆法と『筆経』
『筆法才葉抄』に書いてあります。
この筆は短鋒で穂先が短く雀の
頭のような形をしている所から

雀頭筆と呼ばれています。

一、班竹管牙頭黄金莊筆
はんちくつかがしやうおうこんかざりよで
管長三、三 cm 経三、二 cm 帽長九、六 cm

一、班竹管篠竹帽筆
はんちくつかしのさやかせで
管長五、一 cm 経三、三 cm 帽長五 cm

この雀頭筆の特長は、鋒先だ
けをくずして用い大きくくずす
筆は出来ない筆であるから、多
量の墨液を含ませて大字を書く
のは適当でない。

正倉院文書に界線用筆 題字

光明皇后筆 (延宝三乙卯年
板刻版)

用筆 写字用筆 などその用途
によって筆を使いわけた記録が
あります。これは表筆方法の関
係で各種の使用の融通がきかな
い筆を使用していたものと認め
られています。

中国六朝時代の写経や日本奈
良朝の筆触の強い経巻類の筆
跡、光明皇后の楽毅論、杜家立
成雜書要略などの雄強な文字は
この筆によって書かれたもので
す。この巻筆の表筆技術が半島
または大陸から伝来したことは
いうまでもありません。

この天平筆を模造したのが奈
良国立博物館にあります。
熊野町郷土史研究会

讀誦方華恩大乘義念力強故得見我身又

多寶佛塔十方分身無量諸佛菩薩文

殊師利菩薩藥上菩薩恭敬法故